

「The Only Friend of the Lonely Monster」(6時間扱い)

研究開発学校 小学校英語科カリキュラム 6年 Lesson 5

授業者 伊藤 光

1. <<単元について>>

目標： オリジナルの物語教材“The Lonely Monster”を読んで登場人物の特徴を知り、主人公の願いをかなえるために、馴染みのある定型表現を活用しながら、友達と協力して物語の続きをつくったり視聴者に内容が伝わるように発表したりすることができるようにする。

本単元では、子供が英語に関する知識や技能を身に付け、それらを活用しながら物語の続きをつくって紹介することをねらいとして北海道教育大学と共同で制作した研究開発学校オリジナルの物語教材を使用する。これに、視聴者に場面の様子をわかりやすく伝えようとする等の相手意識をもってコミュニケーションを図ることができるよう、つくった物語の続きを朗読劇のように発表する活動を加える。

単元の開始期では、これまで活用してきた語句、表現や、新たな定型表現と出合いつつ、物語の内容と「自分と仲良くなれる友達が欲しい」という物語の主人公の願いを知ることができるよう、物語の動画を視聴しながら声に出して読み合う場を設ける。単元の展開期では、主人公の願いをかなえるために、自主的・主体的そして協同的に課題解決を図ることができるよう、友達と協力して物語の続きを考え、英語で台本を作成していく活動を位置付ける。そして単元のまとめ期では、学習の成果を実感することができるよう、グループごとにつくった物語の続きを朗読劇のように発表し合い、そのよさを認め合う場を設ける。これら一連の学習を通して、英語を繰り返し聞いたり話したり、声に出して読んだり、正しく書き写したりしながら、相手意識をもってコミュニケーションを図る中で、英語に関する知識や技能を身に付けていくとともに、言語を用いてコミュニケーションを図る大切さや多様なものの見方・考え方を認め合うことの大切さを学んでいくと考える。

2. <<小学校英語科における発達段階を踏まえた育成すべき資質・能力>>

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
第五・六年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞くことに関する知識・技能。 ○ 話すことに関する知識・技能。 ○ 単語や文を声に出して読むこと。 ○ 単語や文を正しく書き写すこと。 ○ 言葉の仕組みや働きへの気付き。(音、単語の綴り、語順等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馴染みのある定型表現を使って、一日の生活や日本や地域の日常的な文化をはじめとした事実、簡単な物語の内容、自分の将来像等について紹介したり、自分や相手の考え等について質問したり答えたりするコミュニケーション能力。 ○ 聞いたり声に出して読んだりしたことを活用して、話したり書き写したりして伝えるコミュニケーション能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。 ○ 日本と外国の言語や生活、習慣、行事等の文化について比較をしながら、共通点や相違点に気付き、多様なものの見方や考え方を認め合う態度。

3. <<育成すべき資質・能力を踏まえた単元の評価規準>>

個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか) 評価1	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか) 評価2	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか) 評価3
<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の特徴を表したり物語の続きを発表したりするための語句、定型表現を聞いたり話したり、声に出して読んだり、正しく書き写したりしている。 ○ 単語の音と綴りには関係があることや物語で使用される定型表現の語順に決まりがあること等に気付き、それらに注意を払いながら英語を使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馴染みのある定型表現を使って、物語の続きを発表したり、視聴した物語の続きの感想を簡単な定型表現を使って話したりしている。 ○ 視聴したり声に出して読んだりした物語で使われている定型表現を、話したり書き写したりしながら、物語の続きをつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視聴したり声に出して読んだりした物語の内容に沿ってつくった物語の続きを、場面絵を見せる等しながら具体的に英語で発表しようとしている。 ○ 物語の続きや主人公と仲良くなれた友達に関して共通点や相違点を見出すことを通して、多様なものの見方や考え方を認め合おうとしている。

4. 《研究との関わり》

「三つの視点」を生かしたアクティブ・ラーニングの具体を以下に示す。子供が学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら学ぶことができるよう「学びの文脈のある単元を構想」する。その中に「必要感のある協同的な学びの設定」と「目的に応じた弾力的な振り返りの設定」を位置付ける。

(1) 学びの文脈のある単元を構想する ～単元のグランドデザイン～

必要感のある協同的な学び

目的に応じた弾力的な振り返り

「主人公の願いがかなう物語の続きを、友達と協力してつくって発表しよう」

	単元の開始期	単元の展開期	単元のまとめ期
罫	1時間	4時間	1時間(本時6/6)
課題	物語の動画を見たり声に出して読み合ったりしながら、主人公の願いを知ろう。	主人公の願いがかなうように、友達と協力して物語の続きをつくろう。	主人公の願いがかなう物語の続きを発表し合い、おもしろさやよさを交流しよう。
開始期	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音と文字・数に関するウォームアップをする。 オリジナル物語教材 The Lonely Monster の動画を視聴しながら、物語全体のイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音と文字・数に関するウォームアップをする。 The Lonely Monster を視聴する。 学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ。
展開期	<ul style="list-style-type: none"> The Lonely Monster を繰り返し視聴したりペアで声に出して読み合ったりしながら、あらすじと主人公の願いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで物語の続きを考え、内容やよさを比較しながら台本を作ったり声に出して読んだりする。 発表に向けてリハーサルをする。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に物語の続きを発表したり、発表から見出せるおもしろさやよさを交流したりする。
まとめ期	<ul style="list-style-type: none"> 物語の続きをつくり、発表するための学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと、わかったこと、できるようになった・できそうなこと、次に生かしたいこと等の視点で学習を振り返り、その内容を交流する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 学習で活用した語句、定型表現等を確認したり学習の成果を見出したりするとともに、次時の学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の成果を振り返りカードに記入する。

(2) 必要感のある協同的な学びを設定する

- 物語の内容の大体や主人公の願いを理解することができるよう、物語の動画を視聴したりペアで声に出して読み合ったりする場を設定する。(ICTの活用、ペア学習)
- 学習で用いている語句や定型表現を活用し、友達と考えや表現を比較しながら協力して課題解決を図ることができるよう、課題設定を工夫するとともに、4～6人程度で役割分担をしながら進めるグループ学習を取り入れる。(練り合い型の協同的な学び、グループ学習)
- 学習の成果を実感したり、自分や友達の学びのよさを認め合ったりすることができるよう、「楽しかったこと」「わかったこと」「できるようになった・できそうなこと」「次に生かしたいこと」等の視点に沿って分析的に振り返ってその内容を交流する場を設定したり、Xチャートを用いて可視化したりする。(全体交流)

(3) 目的に応じた弾力的な振り返りを設定する

- 学習内容に興味・関心を持ち、身に付けるべき技能や学習を進める価値を見出すことができるよう、CAN-DOリストの内容を踏まえながら学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ場を設ける。
- 学習の成果を実感することができるよう、振り返り内容に関してより具体的に説明するよう促したり、振り返り内容に対する価値付けの言葉をかけたりする。
- 資質・能力の高まりを実感することができるよう、単元の学習の成果を「振り返りカード」に記入するよう促す。
- 単元の学習を通して資質・能力を育成することができるよう、振り返り内容や活動中の行動からつまづきや指導する必要がある語句・定型表現等を把握する。

5. <<単元計画>>

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
単元 の 開 始 期	○ 英語の音と文字・数に関するウォームアップをする。 Hey, cook! Look at the book. どれも ook の部分が綴りも読み方も同じだ。 頭文字の違いに合わせて、読み方も変わるね。じゃあ took だと[tuk]になるね。	◇ 単語の音と綴りには関係があることに気付いている。【評価1】 ☆ 身近なものを表す絵と英語の音声と文字・数との対応を理解していくことができるよう、ICTを活用した計画的なウォームアップの場を設定する。
	課題：物語の動画を見たり声に出して読み合ったりしながら、主人公の願いを知ろう。	
1 時 間 目	○ オリジナル物語教材 The Lonely Monster の動画を視聴しながら、物語全体のイメージをもつ。 主人公は Icy 君なんだね。後半には 2 種類のモンスターが出てくるね。 前半は Icy 君の紹介かな。	☆ 学習内容への興味・関心を喚起し、単元のゴールとなる課題を見出すことができるような教材を用意する。
	○ The Lonely Monster を繰り返し視聴したりペアで声に出して読み合ったりしながら、あらすじと主人公の願いを確認する。 Choco ちゃんにも Ramen 君にも嫌われちゃったよ。Icy 君が触ったものは全部凍っちゃうんだ。寂しそう。 Icy 君の最後のセリフは、友達が欲しいということかな。Icy 君にぴったりの友達ができる話が長くといいいな。	◇ 登場人物の特徴を表したり物語の続きを発表したりするための語句、定型表現を聞いたり、声に出して読んだりしている。【評価1】 ☆ <u>物語の内容の大体や主人公の願いを理解することができるよう、物語の動画を視聴したりペアで声に出して読み合ったりする場を設定する。</u> 【必要感のある協同的な学び】
	課題：主人公の願いがかなう物語の続きを、友達と協力してつくって発表しよう。	
	○ 物語の続きをつくり、発表するための学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ。 どんな続きになるといいかみんなで考えよう。みんなで発表し合っているいろいろな友達との出会いの場面を楽しめるといいいね。	☆ <u>学習内容に興味・関心を持ち、学習を進める価値を見出すことができるよう、CAN-DO リストの内容を踏まえながら学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ場を設ける。</u> 【目的に応じた弾力的な振り返り】
単元 の 展 開 期	○ 英語の音と文字・数に関するウォームアップをする。 12 個のリンゴを持っていて、5 個食べちゃった場面だね。残りの数は… 数は seven, りんごは apples で表さないといけないね。	◇ 単語の音と綴りには関係があることに気付いている。【評価1】 ☆ 身近なものを表す絵と英語の音声と文字・数との対応を理解していくことができるよう、ICTを活用した計画的なウォームアップの場を設定する。
	○ 学習の見通しをもつ。 物語の続きの台本を作らないといけないね。Icy 君の友達になる登場人物の絵も描こう。	☆ 主体的・協同的に課題解決を図ることができるよう、計画を確認する等、学習の見通しをもつ場を設ける。 ☆ 登場人物の様子を表す絵を具体的に描くことができるよう、研究開発専用の Web ページ上にある過年度の作品 (ピクトフォリオ) を提示する。
2 時 間 目	課題：主人公の願いがかなうように、友達と協力して物語の続きをつくろう。	
	○ The Lonely Monster を視聴する。 登場人物と出会う場面のパターンは台本作りに生かせそうだ。続きを作るのに役立つ表現も物語中にたくさんあるね。	☆ 物語の続きをつくる際に語句や定型表現を活用することができるよう、全員で The Lonely Monster の動画を視聴する場を設けたり、グループ毎に iPad で視聴することができるようにしたりする。
	○ グループで物語の続きを考え、内容やよさを比較しながら台本を作ったり声に出して読んだりする。 氷系のキャラとか凍っても大丈夫なキャラなら友達になれると思うよ。融けかかっているアイスクリームで登場人物は食べ物でできているね。熱々の食べ物のキャラを登場させて Icy 君が融けないような話にするといいいよ。	◇ 視聴したり声に出して読んだりした物語の内容に沿ってつくった物語の続きを、場面絵を見せる等しながら具体的に英語で発表しようとしている。【評価3】 ☆ <u>課題設定を工夫するとともに、4~6 人程度で役割分担をしながら進めるグループ学習を取り入れ、学習で用いている語句や定型表現を活用し、友達と考えや表現を比較しながら協力して物語の続きをつくるよう促す。【必要感のある協同的な学び】</u>

She is blue. She is made of soda sherbet. 色や身近なものの特徴にしているのが Nice!

He is red. He is made of hot ramen. He has kimchi and hot chili soup. これは辛そうだ。 Interesting!

最後の場面まで作ったら、登場人物役4人と語り手役1人で読み合わせたいね。他のグループの友達にも見せて、わかりやすく伝えるために良かったところやおもしろいところを教えてください。

○ 発表に向けてリハーサルをする。

やさしそうな登場人物のセリフは柔らかい口調で話すともっと Good!

Great! 視聴者に語りかけるような語り手の話し方はほくも真似してみたいな。

○ 視点に沿って学習を振り返りその内容を交流するとともに、学習で活用した語句、定型表現等を確認したり次時の学習の見通しをもったりする。

本番では台本を見ずに、実際に演じているように発表できるといいな。

語り手は説明役でもあるから、登場人物の絵を指し示しながら話すとよさそう。

◇ 視聴したり声に出して読んだりした物語で使われている定型表現を、話したり書き写したりしながら、物語の続きをつくっている。 **【評価2】**

☆ グループ毎に iPad で The Lonely Monster を視聴できるようにしたり、活動のための十分な時間を保障したりする。

◇ 登場人物の特徴を表したり物語の続きを発表したりするための定型表現の語順に決まりがあること等に気付き、それらに注意を払いながら聞いたり話したり、声に出して読んだり、正しく書き写したりしている。 **【評価1】**

☆ 語順に応じた色分けをして示したり、個に応じて語句・定型表現の発音や綴りのモデルを示したりする。

☆ 学習の成果を実感したり、自分や友達の学びのよさを認め合ったりすることができるよう、「楽しかったこと」「わかったこと」「できるようになった・できそうなこと」「次に生かしたいこと」等の視点に沿って分析的に振り返ってその内容を交流する場を設定したり、次時の学習の進め方を報告するよう促したり、振り返り内容に対して価値付けの言葉をかけたりする。

【必要感のある協同的な学び】【目的に応じた弾力的な振り返り】

単元のまとめ期 6時間目

《本時》

課題：主人公の願いがかなう物語の続きを発表し合い、おもしろさやよさを交流しよう。

○ グループごとに物語の続きを発表したり、発表から見出せるおもしろさやよさを交流したりする。

私たちのグループは、シャベットのシャビィちゃんと出会う場面を発表するよ。

Nice! 親切そうに Icy 君に話しかけているね。冷たいキャラ同士仲良くなるね。

ぼくたちは、熱くて辛いラーメンのピリカと出会う場面の発表だ。頼りがいのあることが伝わるように発表するよ。

Wonderful! この友達と持っているものなら Icy 君が触っても融けないね。発想がおもしろかったよ。

登場人物役同士の話し方は、実際に会話している場面ようだったよ。

Interesting! 語りに合わせて見せている絵のおかげで、場面のイメージがわくよ。

○ 視点に沿って学習を振り返り、その内容を交流する。

これまで使ってきている定型表現を駆使すれば、人物の特徴やしたこと等結構いろいろなことを伝えられそうだよ。

この学習を通して、自分がこれから出会うどんな人ともうまくやっていけるようになりたいと思ったよ。でもやっぱり、自分と合う仲良しの人と出会う方がいいな。

○ 単元の学習の成果を振り返りカードに記入する。

台本作りをしながら、文中の語順にはパターンがありそうだと思った。

今回学習したことを友達紹介やもっと詳しい自己紹介等をするときに役立てたい。

◇ 馴染みのある定型表現を使って、物語の続きを発表したり、視聴した物語の続きの感想を簡単な定型表現を使って話したりしている。 **【評価2】**

☆ グループ毎に物語の続きを朗読劇のように発表する場を設けるとともに、発表を見た子供たちに感想を Good. や Interesting. 等の表現で話すよう促す。

◇ 物語の続きや主人公と仲良くなった友達に関して共通点や相違点を見出すことを通して、多様なものの見方や考え方を認め合おうとしている。 **【評価3】**

☆ 発表が終わる毎に発表から見出せるおもしろさやよさを交流する場を設け、自分のグループの発表内容と比較したり、おもしろさやよさを日本語で具体的に発表者に話したりするよう促す。

☆ 学習の成果を実感したり、自分や友達の学びのよさを認め合ったりすることができるよう、「楽しかったこと」「わかったこと」「できるようになった・できそうなこと」「次に生かしたいこと」等の視点に沿って分析的に振り返ってその内容を交流する場を設定したり、Xチャートを用いて可視化したり、振り返り内容に対して価値付けの言葉をかけたりする。

【必要感のある協同的な学び】【目的に応じた弾力的な振り返り】

☆ 資質・能力の高まりを実感することができるよう、単元の学習の成果を「振り返りカード」に記入するよう促す。

【目的に応じた弾力的な振り返り】

6. 《本時案》 (6 / 6)

本時の目標：
 “The Lonely Monster”の主人公の願いがかなう物語の続きを友達と協力して発表したり，内容のおもしろさやよさを交流したりすることができるようにする。

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
開始期	主人公の願いがかなう物語の続きを発表し合い，おもしろさやよさを交流しよう。	
	○ 学習の見通しをもつ。 いよいよグループ毎に作った物語の続きをみんなに発表するときだね。	☆ 自主的・主体的に，そして協同的に学習を進めることができるよう，5年時に行った「函館小あるあるCSスキットづくり」等の活動を想起するよう促しながら，活動の仕方や発表の順番を確認する場を設ける。
展開期	○ グループ毎に物語の続きを発表したり，発表から見出せるおもしろさやよさを交流したりする。 私たちのグループは，シャベットのシャビィちゃんと出会う場面を発表するよ。 Nice! 親切そうに Icy 君に話しかけているね。冷たいキャラ同士仲良くなるね。 ぼくたちは，熱くて辛いラーメンのピリカと出会う場面の発表だ。頼りがいのあることが伝わるように発表するよ。 Wonderful! この友達と持っているものなら Icy 君が触っても融けないね。発想がおもしろかったよ。 登場人物役同士の話し方は，実際に会話している場面ようだったよ。 Interesting! 語りに合わせて見せている絵のおかげで，場面のイメージがわくよ。 シャビィちゃんもピリカ君も，Icy 君の友達になれたのは良かったよね。でも2人の特徴は違っていたね。体の色も，性格も。 現実の世の中にも，いろいろな人がいるよね。自分もいろいろな特徴の人と出会うだろうし，自分と合う人もいれば合わない人もいそう。	◇ 馴染みのある定型表現を使って，物語の続きを発表したり，視聴した物語の続きの感想を簡単な定型表現を使って話したりしている。 【評価2】 ☆ グループ毎に物語の続きを朗読劇のように発表する場を設けるとともに，発表を見た子供たちに感想を Good. や Interesting. 等の表現で話すよう促す。 ☆ 発表内容に合ったほめ言葉を表す表現を選択し，発表者に感想を添えて話すことができるよう，既習のほめ言葉リストを掲示しておく。 ◇ 物語の続きや主人公と仲良くなれた友達に関して共通点や相違点を見出すことを通して，多様なものの見方や考え方を認め合おうとしている。 【評価3】 ☆ 発表が終わる毎に発表から見出せるおもしろさやよさを交流する場を設け，自分のグループの発表内容と比較したり，おもしろさやよさを日本語で具体的に発表者に話したりするよう促す。
まとめ期	○ 視点に沿って学習を振り返り，その内容を交流する。 これまで使ってきている定型表現を駆使すれば，人物の特徴やしたこと等結構いろいろなことを伝えられそうだよ。 この学習を通して，自分がこれから出会うどんな人ともうまくやっけていけるようになりたいと思ったよ。でもやっぱり，自分と合う仲良しの人と出会う方がいいな。 ○ 単元の学習の成果を振り返りカードに記入する。 台本作りをしながら，文中の語順にはパターンがありそうだと思った。 今回学習したことを友達紹介やもっと詳しい自己紹介等をするときに役立てたい。	☆ <u>学習の成果を実感したり，自分や友達の学びのよさを認め合ったりすることができるよう，「楽しかったこと」「わかったこと」「できるようになった・できそうなこと」「次に生かしたいこと」等の視点に沿って分析的に振り返ってその内容を交流する場を設定したり，Xチャートを用いて可視化したり，振り返り内容に対して価値付けの言葉をかけたりする。</u> 【必要感のある協同的な学び】【目的に応じた弾力的な振り返り】 ☆ <u>資質・能力の高まりを実感することができるよう，単元の学習の成果を「振り返りカード」に記入するよう促す。【目的に応じた弾力的な振り返り】</u>